

留 学 報 告 書

記入日:2013年8月23日



所属学部／研究科・学科／専攻	教養デザイン研究科博士後期課程
留学先国	カナダ
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	モントリオール大学 Université de Montréal
留学期間	2012年10月～2013年5月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	D1年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	教養学部政治学科 <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2013年5月12日
明治大学卒業予定年	2016年3月
留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input checked="" type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期: 9月1日～2月中旬 2学期: 1月上旬～4月下旬 3学期: 5月～7月 (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬,2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	約4万6000人
創立年	1878年

留学費用項目	現地通貨(CAD)	円	備考
授業料	\$0	0円	交換留学のため。
宿舍費	\$4,000	328,000円	一ヶ月364\$×11ヶ月
食費	\$3,300	270,600円	
図書費	\$653	53,546円	必読書分のみ。授業用以外で購入した図書は教育娯楽費に含めた。
学用品費	\$200	16,000円	文房具、コピー代等
教養娯楽費	\$300	24,600円	
被服費	\$1,000	82,000円	内9割は越冬用の衣服(ジャケット684\$,ブーツ200\$ほか)
医療費	\$400	32,800円	現地でハードコンタクトを紛失したため、ソフトコンタクトレンズを購入。
保険費	\$2400	197,000円	海外旅行保険142,490円+モントリオール大学保険664\$,端数四捨五入
渡航旅費	\$2730	224,220円	1年オープンチケット、日本円購入
雑費	\$400	4,400円	
その他	\$480	39,000円	帰国に際する荷物発送(船便)
その他	\$800	65,600円	旅行(ケベック・シティ、トロント、オタワ)
合計	\$15,863	1,337,580円	それぞれの項目について1CAD=82円で計算している。合計欄は、それぞれの項目でレート計算したものを足してだしているため、合計欄については1\$=82円にならないことに注意。

渡航関連

渡航経路: 成田発シカゴ経由モントリオール着

渡航費用

チケットの種類 1年オープン

往路 _____

復路 _____

合計 224,220 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

HIS

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

モントリオール大学の寮

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数)

3)住居を探した方法:

大学のガイドブック

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

壁が薄いので隣の部屋の音がすべて聞こえます。また、3棟あるうち1棟にしか共同キッチンがないため、キッチンのない棟に入室した場合、非常に不便で自炊が著しく困難です。私の場合、キッチンのある階に部屋があったので幸運でした。おそらく事前に部屋は指定することができず、到着するまでわからないので、この点注意が必要です。

現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった利用した:

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

友人。留学先の相談窓口は使用しませんでした。

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

治安は非常に良好で、日本と同じ感覚でいても問題ないレベルです。

ただし、私は大学の図書館で手荷物の盗難に遭いました。トイレに立つときなどのためにあらゆる貴重品をいれたショルダーバッグを盗られました。警備員さんの話によれば、ここ何年も盗難事件は起こっていないとのこと、驚かれていましたが、その後他の人がPCを盗難された現場に遭遇したこともあります。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWiFi接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

大学の校舎内では学生ならばwifiにアクセスできますが、大学の寮ではLANケーブルが必要です。市内では、ほぼすべてのカフェで無料wifiにアクセス可能です。公園でアクセスできる場所も多いです。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地の銀行口座を解説しましたが、カナダへの国際送金は非常に煩雑なので、定期的にクレジットカードで日本の銀行から現金を引き出していました。カナダの銀行は、口座を開設するのも閉じるのも、さらにはキャッシュカード紛失手続きまでも非常に簡単です。大学近くの支店は特に留学生の対応にも慣れている印象があり、親切丁寧かつスムーズでした。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

特になくと思います。食べ物も含めて、日本にあるものはなんでも簡単に手に入ると思います。手に入らないのはそれこそ和書くらいでしょうか。

進路について

1) 進路	
<input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input checked="" type="checkbox"/> その他:在籍(研究者志望)	
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など	
特になし	
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)	
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) 私自身は就活をしたことはありませんが、留学後に就職していった友人をこれまでたくさんみてきました。語学力や留学経験そのものだけではすでに就職の武器にならないようです。培った語学力で何ができるのか、留学経験をどのように活かしていくのか、その部分がない人はせっかく留学したのに、留学しなかった人と土俵が同じまま…という人もいらっしゃいます。これは、留学することにはさほどメリットがないと言いたいものではありません。留学して得たことを活かせばそれはもちろんすばらしい財産になります。しかし逆に、留学して得たことが企業側に伝わらなければ、かえってマイナス要素が増えるということだと思います。	
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。	
明治大学博士課程に継続して在籍、博士論文執筆中です。	
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。 大学院に進学するには語学力が絶対に必須ですので、がんばってください。ひたすら原著で学術書や論文を読むのみだと思います。その分野の教科書的な本や誰もが引用するような本・論文の一つを選び、精読するのもいいでしょう。読めるようになるまでは一冊を丁寧に読むことが一番いいと思います。進学を目指す方は、何よりも英語(及び第二外国語)の読解力を十二分に訓練してください。私はとにかく語学が苦手なので、読めるようになるまで非常に長い時間がかかりました…。スピードをもって読む力がなければ留学先(特にモントリオール大学)の勉強についていけません。目安は1時間に 5~10 ページをきちんと理解しながら読める水準になればついていけると思います。 モントリオール大学の勉強はとにかくハードです。読む量も書く量も非常に多い。英語で読まれ、フランス語で議論をし、フランス語でレポートを書く。これを乗り越えたら非常に力になりますし、何よりとても自信がつかます。これ以上つらい勉強はないと思う程です。これを前向きに考えれば、向上心のある方には最適な環境です。	
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。	

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
12 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:研究科に相当する授業がないため)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Séminaire général	一般演習
科目設置学部・研究科	教養学部政治学科博士課程
履修期間	秋学期(10月~1月)
単位数	3
本学での単位認定状況	0単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	ディスカッション(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	Pascale Dufour

授業内容	<p>政治学及び社会科学の方法論を、認識論・存在論の次元から問い直すことが本授業の目的であった。教科書的文献として“Ways of knowing”を中心に、政治学に用いられる方法論(大きくは実証主義アプローチと構成主義アプローチ、細かくは実験、統計、比較、スタディ・ケース、インタビュー、歴史)を順に復習していく。そして、それぞれのアプローチがもつメリット・デメリットを、実証主義/構成主義の土台となっているそれぞれの認識論・方法論に対する理解を深めることが授業内容である。</p> <p>授業の方法は、学期開始前にインターネットにアップされる授業計画書を事前に入手し、そこに記載されている必読文献を各自用意する。</p> <p>毎回の授業は、各自読んできた必読文献の内容について議論を行う。順番に2人ずつディスカッション・リーダーを務める。ディスカッション・リーダーが授業開始時に問題提起を行う。他の学生は、各自挙手して意見を言い合う。時々、教授が議論の流れを修正したり、重要な問いを投げかけるなどして補佐をする。</p>
試験・課題など	毎週の予習(本の1章分ないしは論文×5、それに本1冊が加わる週もある);レポート課題は学期中4回。10月1本(5ページ)、11月1本(10ページ)12月1本(10ページ);1月最終レポート(10ページ)
感想を自由記入	<p>非常に興味深い授業だった。レポートをフランス語で書いたため(他の留学生は英語で提出)、提出前にフランス語のチェックをしてくれる人を履修生の中から募ってくださった。また、その人自身のレポート課題の邪魔とならないよう提出日も2、3日の猶予をくださるなど、よく配慮をいただいていた。月曜の朝8時半からの授業で、レポートのある週は三日徹夜した後に登校ということも頻繁で、いつも疲労困憊の状態出席していたがなんとかなった。この授業で学んだことは大きく、研究の土台になったと思う。</p>

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Villes et politique publique	都市と公共政策
科目設置学部・研究科	教養学部政治学科修士課程・博士課程
履修期間	秋学期(10月→1月)
単位数	3
本学での単位認定状況	0単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	ディスカッション(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	Professeure Laurence Bherer
授業内容	1980年代以降、カナダを含め、様々な地域において、都市は制度変革の対象となっている。本授業の目的は、都市行政のそうした改革及び理論について学ぶことにある。
試験・課題など	毎週の予習(論文三本);学期に一度、課題論文を批判分析するレポート(10ページ)を提出した上で、その論文を取り扱う授業の最初に発表;学期中に4回、同様のレポートのミニバージョンを1ページ以内にまとめて提出;学期末に自由課題の最終レポート(20ページ)
感想を自由記入	<p>政治学の中でも私にとっては畑違いの分野だったため、非常にきつかった。都市政治学はアメリカのシカゴ学派をその礎にしている分野である特質上、理論が想定している都市が往々にして北米に限られている。そのため、北米に初めて暮らす私には予習で読む論文から実態がなかなかイメージできず、授業の理解度を下げたように思う。</p> <p>また、内容だけではなく読解とレポートにも苦勞した。秋学期当初は読解力も追いついておらず、予習で一本の論文を読むのに丸一日かかるなど、とにかく時間が足りなかった。同じ授業の留学生は論文一本に速読だと2時間程度しかかかっていないのを横目に見て、劣等感を強く感じた。このクラスにはフランス語圏外からの留学生が私の他にも3人いたため、授業での発言は比較的進んできたように思う。</p> <p>学期中、何度か授業外の時間に教授の研究室に呼んでいただき、レポート課題をできるかどうか(言語的な面で)気遣いをしてくださった。</p>

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Communication écrite Intermédiaire I		ライティング・コミュニケーション(フランス語)中級 1	
科目設置学部・研究科			
履修期間	冬学期(2013年1月-5月)		
単位数	3		
本学での単位認定状況	0単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に210分が1回		
担当教授	Iman Cheaib		
授業内容	フランス語らしい説明文、感情表現文の書き方を学ぶことが本授業の趣旨である。そのための、文の構造、文法について講義形式で進められる。実際の作文はすべて任意の宿題である。		
試験・課題など	中間試験、期末試験に作文の試験。試験時間はいずれも3時間半。定期的に作文や文法問題の宿題が出題されたが、これらは評価の対象外であった。		
感想を自由記入	講義内容はよく理解できたが、作文する際に学習したことを生かすのにはこつこつとフランス語で書く練習を重ねる以外にないと思った。ライティング力を高めたいと思って受講したが、実際にはこれ以外の授業で課されていたレポートの方がライティング力向上に役立ったように思う。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Séminaire de synthèse: politique québécoise et canadienne		総合演習:ケベック・カナダ政治学	
科目設置学部・研究科	教養学部政治学科博士課程		
履修期間	冬学期(2013年1月-5月)		
単位数	3		
本学での単位認定状況	0単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	ディスカッション(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に180分が1回		
担当教授	Professeur Jean-François Godbout		
授業内容	<p>本授業は、カナダ及びケベックにおける政治学研究の主要テーマや主要アプローチを理解することを目的としている。テーマとして、カナダ政治学説史(カナダ政治学理論)、憲法、連邦制、行政権、立法権、司法権、「開かれた連邦制」、選挙と投票行動、政党制、先住民、西部の州、ケベック州が設定されており、カナダ・ケベック政治学を網羅的・体系的に理解することが目指されていた。</p> <p>学期開始前に授業計画書を入手しておくのは他の授業と同じである。</p> <p>毎週テーマに沿った必読図書が1冊ずつ決められており、必ず予習して授業に臨まなくてはならない。その本を読んでこなかった場合は教室から追い出されることになる。授業は、その週の本の主題、アプローチ、内容、批判などについて教授が学生に対して問いを投げかける形式で授業が進められる。本の内容については細部に至るまで問われることもあるので、だいたいの内容がわかっていたらいいというものではなかった。</p>		
試験・課題など	毎週の予習(本1冊);学期中に4回、必読文献の中から各自選択して書評(5ページ以内)を提出;期末テスト(論述形式、全3問、1問につき5ページ程度の解答が必要)。尚、テストは自宅受験で6時間と定められていたが、当日になって9時間に延長された。総合演習の授業はすべて、博士論文提出資格試験(Examen de synthèse)の準備講座と位置づけられているため、課題や試験の難易度は高く、高い精度が求められる。		
感想を自由記入	非常に多くを学んだ授業であった。Godbood先生は大変厳しい方だったが、優しさ故の厳しさという感じであった。書評の課題はフランス語を抜きに内容で評価して下さったが、一方では私の進路希望を踏まえた上でよりフランス語を洗練させた文章に直して再提出するよう言われたこともあった。最終試験時間を9時間にまで延長して下さったのも、私を含めたフランス語を母語としない学生への配慮故だった。授業を重ねるうちに、自然と「先生はどんな質問を投げかけるか?」と意識しながら読むようになったため、学術書を読みこむ力が飛躍的に伸びたように思う。とはいえ、週に200-300ページの本を1冊ずつ読むのは、私の語学力ではとても間に合うものではなく大変だった。理解の精度と全部を読み切るスピードの葛藤が常にあった。この授業で学んだことは、内容的には、世界の中でもケベック州でしか学べないことだったのは間違いない。留学してよかったと思える授業だったといえる。		

留学に関するタイムチャート

留学までの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。
(形式は箇条書きなど簡単なもので構いません)

2012年 1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・協定交流学出願結果が出る。必要書類作成(1, 2月) ・航空券購入(3月) ・夏の語学学校の申し込み(3月)
4月～7月	<ul style="list-style-type: none"> ・モントリオール大学から入学許可証受領(5月頭) ・2012-2013年のモントリオール大学の学年歴が変更されると通知が届く ・CAQ、ビザの申請・取得(5, 6月) ・出発(6月30日) ・ケベック・シティにて開催された世界フランコフォニー大会に指導教授の小畑精和先生と参加(7月2日～5日) ・ケベック大学モントリオール校にて語学学校に通う(7月9日→)
8月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ビザの都合で一時帰国(8月中旬～9月上旬) ・再入国(9月19日)、モントリオール大学の寮に入寮 ・銀行口座開設、携帯契約
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・秋学期開始(10月1日～*通常は9月開始) ・図書館で盗難に遭う(10月下旬) ・10月末から11月上旬にかけて毎週レポート課題に喘ぐ ・コンコルディア大学の道場に通い、剣道を始める(11月) ・トロントのヨーク大学に明治大学から交換留学で行っている友人がモントリオールに来る。次いで、こちらもトロントに彼女を訪ねる(12月中旬) ・アメリカ(アリゾナ・グランドキャニオン)に旅行する(年末年始)
2013年 1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・期末レポートを2つ、無事に提出、無事に及第(1月上旬) ・冬学期の授業登録、授業開始(1月第3週→) ・大学内のプールで水泳を始める(1月) ・日本から友人が訪ねてくる。一緒にオタワへ旅行(3月中旬)
4月～7月	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験を無事に終える(5月頭) ・帰国(5月11日)